

大迫力！水城のパノラマ土層！

発掘新聞

6月3日号

平成26年度第1号

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575



断面をきれいにした水城跡。8月30日にもう一度見ることが出来る。(当館撮影)

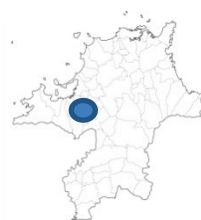
特別史跡、水城跡 100年ぶりの大公開！

市にまたがる水城跡で、6月1日(日)に現地説明会が行われた。説明会には約800名の人が押し寄せ、30度を超える真夏にも関わらず、多くの方が熱心に説明に耳を傾け、土層に目を見入っていた。

今年は、水城が築造されてから1350年の節目にあたることから、土塁の整備を行うこととなり、その第一工程として実施した調査である。

JR水城駅横の切り通し部分の壁面を幅12m、高さ7mにわたって露出させており、大規模な土層を眼前に見ることが出来た。大正2年、鹿児島本線拡幅の際に行われた調査以来、100年ぶりとなる調査で、当時の調査の内容を確認したほか、いくつかの新発見があったという。

土塁は色や質の異なる土を細かく積んで突き固める「版築技法」で造られているが、今回の調査では土をわざと傾斜させて積んでいた



当館が発掘調査を行った大野城市と太宰府

り、川砂のようなもろい土砂も使用していたことが分かった。下層では軟弱な地盤を補強する敷粗(しきそだ)も見つかり、当時の土木技術のレベルの高さがうかがわれた。

水城跡の断面公開は8月30日(日)10時～12時にも開催予定で、「水城・大野城・基肆城」によると、この他にもシンポジウムが行われるという。

調査を行った杉原敏之調査研究班長の話「これほど大規模な土層は現地で見なければ絶対に見ることが出来ない。実際の大きさを8月に見に来て感じて欲しい。」

(城門記者)

説明を行う杉原班長(当館撮影)



断面の清掃を行う杉原班長(当館撮影)



「清掃も命がけ！
吊り下げられた男！」

右写真は水城の断面を薄く削ってきれいにしながら、どのように土層が重なっているのかを観察している状況である。

7mの高さがあるため下からでは手が届くはずも無い。そのため、上からぶら下げられたロープにつかまり、手の届く範囲を掃除して、土層を観察しながら少しずつ下に降りていくこととなる。写真でも今いる場所より上側はきれいに土層がよく見えるが、脚より下側は未だ土をかぶって不明瞭な状況が分かる。

ロープは腰に付けたベルトに固定するため、日々腰痛に悩まされる調査員もいる。